

創世記10 創世記4章17節～26節

「レメクとセツ」

イントロ：

1. 前回までの復習

- (1) 創世記には11の区分（トルドット）がある。
- (2) 今回で、第1のトルドットが終了（2：4から始まった）
 - ①人類の創造
 - ②墮落
 - ③エデンの園からの追放
 - ④カインとアベル
 - ⑤カインはエデンの東、「ノデの地」、「ノド（さすらい）の地」（新共同訳）に住んだ。
- (3) 創世記の記事は、神話や伝承ではなく歴史的事実である。
- (4) がん哲学—始まりは小さい。時間がかかる。

2. メッセージのアウトライン

- (1) カインの道（神に背を向けて生きる人々）
 - ①エノク
 - ②イラデ
 - ③メフヤエル
 - ④メトシャエル
 - ⑤レメク
- (2) セツの道（神とともに生きる人々）
 - ①アベルは死んだ。
 - ②その代わりとしてセツが誕生した。
 - ③セツはエノシュが生まれた。

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 2つの道の存在
- (2) カインの道は広いが、セツの道は狭い。
- (3) では、あなたはどちらの道を選ぶか。

このメッセージは、2つの道の存在を確認し、セツの道を選ぶように決断を迫るものである。

I. カインの道

1. カイン（16節）

- (1) 「主の前から去って」→偏在の神から去ることはできない。
- (2) 主に出会う特定の場所のこと。シャカイナグローリーのあるエデンの園の入り口。
- (3) 「ノデの地」、「ノド（さすらい）の地」（新共同訳）
- (4) 「エデンの東」とは、目に見える神の臨在から東の方に遠のくこと。

2. エノク（17節）

- (1) カインの妻は、アダムとエバから生まれた女性。
 - ①妹、姪、あるいは又姪。
 - ②モーセの律法が与えられるまでは、これが許されている。
- (2) エノク（ハノク）：奉献という意味。ハヌカの祭りと同じ言葉。
- (3) カインは、町を建てていた。これは神の命令に違反している。
- (4) その町は、エノクと呼ばれた。

3. イラデ（18節）

- (1) イラデ：町の人という意味。
- (2) 町、都市は、神に敵対する文化が育つ場所。

4. メフヤエル（18節）

- (1) メフヤエル：神は私を生かしてくださるという意味。
- (2) カインの系図の中にも神を信じる者がいる。

5. メトシャエル（18節）

- (1) メトシャエル：神の人という意味。
- (2) 彼もまた、神を信じる人。

6. レメク（18～24）

- (1) アダムから7代目。
- (2) レメク：兵士、征服者という意味。
- (3) ふたりの妻をめとった。
 - ①アダ：装飾、飾るという意味。
 - ②ツイラ：きらきら輝くという意味。

- ③彼女たちの名前は、性的快楽を示唆する。
- (4) アダの息子たち
 - ①ヤバル：作り出す人という意味。
 - *遊牧民の先祖。ベドウィンの生活。町から出た。
 - *アベルは定住の羊飼。ヤバルは遊牧の羊飼。
 - ②ユバル：作り出す人という意味。
 - *立琴と笛を奏する者の先祖。
- (5) ツィラの息子と娘
 - ①トバル・カイン：制作力を得た人という意味。上の2人と同じ語源の名前。
 - *青銅と鉄のあらゆる用具の鍛冶屋。
 - ②ナアマ：みめ美しいという意味。
 - *女性が系図に出てくるのは、珍しい。なんらかの理由があったものと思われる。
- (6) 彼らは、人間に降りかかった呪いを和らげるために、新しい物を作り出した。
- (7) 妻たちに対するレメクの歌 (23~24 節)
 - ①聖書の中の最初の歌。
 - ②神に反抗する歌。
 - ③3つの対句からなっている。対句はヘブルの詩の特徴。
 - *妻たちへの呼びかけ。
 - *自分の力を誇る。必要以上に暴力を振るう。
 - *レメクの復讐は、カインの10倍。神の守りよりも、自分で自分を守る。
 - *イエスは、「7度を70倍するまで赦せ」と教える (マタイ 18:22)。

7. アダム以降7代目までの系図

- (1) カインが最初の「がん細胞」となった。
- (2) 人類の文化の発展が、神の意図とは別の方向に進む。
 - ①都市生活
 - ②遊牧生活
- (3) 産業の発展
 - ①牧畜。ミルク、衣服。
 - ②鍛冶屋。
 - ③音楽
- (4) 一夫多妻
- (5) 文字を書く能力
- (6) 詩を作る能力

II. セツの道 (25～26 節)

1. セツ：定める。土台という意味

(1) エバが命名している。

(2) 新しい家系の土台となる。

「カインがアベルを殺したので、彼の代わりに、神は私にもうひとりの子を授けられたから」

(3) 「もうひとりの子」

① 「子」とは「種」という言葉。

② 創世記3：15の「女の子孫」と同じ言葉。

③ アベルに代わる息子。「女の子孫」を輩出する家系。

④ エバは霊的に成長し、神の計画を理解するようになっている。

2. エノシュ：朽ちる人という意味

(1) 詩篇103：15

「人の日は、草のよう。野の花のように咲く」。ここでの人は、エノシュ。

(2) 「主の御名によって祈る」

① 霊的覚醒があった。

② 定期的な公の礼拝の始まり。

③ セツの道が顕在化してくる。

結論

1. 2つの道は聖書を貫く一大テーマ

2. セツの道

(1) エノク（生きたまま天に上げられた人）

(2) ノア

(3) アブラハム

(4) モーセ

(5) イエス・キリスト（マタイ7：13～14）

「狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入って行く者が多いのです。いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです」